

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	253	科目名	生物総合評価管理学事例研究		サブネーム	バイオテクノロジーと食のリスク管理・事例研究		
共催機関名		レベル	中級		講義枠	水曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要	食という複雑系メディアにおける、化学物質、生物のリスクアセスメント、リスク管理、リスクコミュニケーションの問題を取り上げる。食を取り巻くさまざまな状況、特殊な要因について説明するとともに、食の分野のリスクアセスメントと管理を考える上で重要な問題、課題を紹介する。後期は特にバイオテクノロジーに焦点を置き、新技術による開発・リスク管理へのインパクトについて論じる。							

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
開発とバイオテクノロジー(1)	1	農業と生物多様性	遺伝子組換え植物の貿易は生物多様性条約の基で、生物多様性に与える影響のないように考慮されるよう法制化されたが、そもそも生物多様性とは、また、一般に農業の生物多様性に与える影響とは、という観点で議論する。	10月3日	共通講義棟 1号館 204	松尾和人	農業環境技術研究所
	2	植物育種とバイオテクノロジー	人類の歴史は作物の改良の歴史でもある。近年のバイオテクノロジーの発達は新しい植物の育種に大きなインパクトを与えている。それは遺伝子組換え技術だけでなく交配による育種にも大きなツールを与えていることを紹介する。	10月10日		鈴木隆夫	サカタのタネ
はじめに	3	バイオテクノロジーの食に与えるインパクト	食品分野におけるバイオテクノロジーを中心とする技術革新の展開とそのインパクトについて概説する。	10月17日	人間文化 402	橋本昭栄	サントリー
開発とバイオテクノロジー(2)	4	遺伝子組換え技術による食糧の確保のための植物育種(1)	人口増加や耕地の荒廃により食糧の確保は難しくなっている。土壌流出や虫害に対応するため遺伝子組換え技術により新品種が開発され、世界的にはかなりの生産がなされている。その現状と安全性確認の枠組みについて紹介する。	10月24日	共通講義棟 1号館 204	山根精一郎	日本モンサント
	5	遺伝子組換え技術による食糧の確保のための植物育種(2)		10月31日			
	6	遺伝子組換え技術による食品微生物の育種	コーデックスでは遺伝子組換えによる食品微生物の安全性評価法が決められたが、開発の現状と安全性確認の枠組みについて紹介する。	11月7日		佐々木隆	明治乳業
	7	遺伝子組換え技術を用いた食品添加物(酵素)の開発	遺伝子組換え技術を用いた食品添加物の市場はヨーロッパで特に進んでいるが、その開発の現状と安全性確認の枠組みについて紹介する。	11月14日		高木 忍	ノボザイムズジャパン
	8	遺伝子組換え技術による動物の育種	遺伝子組換え技術による魚類等の動物の開発が進んでいる。コーデックスにおける安全性評価法策定の作業も始まった。遺伝子組換え動物の開発の状況を紹介する。	11月21日		中山一郎	水産総合研究センター 中央水産研究所
安全性評価とバイオテクノロジー	9	遺伝子組換え技術を用いた食品の安全性評価(1)	2003年コーデックスバイオテクノロジー特別部会はその目的を達して終了した。しかし、当初の想定以外にも多くの討議すべきことがあり、2004年の総会で再開が決められた。遺伝子組換え技術を用いた食品の安全性評価について総合的に紹介する。	11月28日	人間文化 402	橋本昭栄	サントリー
	10	遺伝子組換え技術を用いた食品の安全性評価(2)	講義No.8の続き	12月5日	共通講義棟 1号館 204	千川 奏	日本モンサント
	11	品質管理技術におけるニューバイオテクノロジーの役割(1)	遺伝子検査技術などのバイオテクノロジー応用技術は、汚染微生物の同定から食肉の品種の同定まで、品質管理などに大きな影響を与えつつある。その現状と展望について紹介する。	12月12日		布藤 聡	ファスマック
	12	品質管理技術におけるニューバイオテクノロジーの役割(2)		12月19日			
効能評価とバイオテクノロジー	13	ニュートリゲノミクスによる食品の効能評価	ヒトゲノムの解読とニュートリゲノミクス研究により食品成分の遺伝子への影響を解析できるようになり、詳細な効果効能とリスクの解明が可能になることが期待されている。ニュートリゲノミクスの現状と将来の展望について紹介する。	1月9日	桑田 有	明治乳業	
	14	プロバイオティクス	人の健康増進に寄与するとして最近脚光を浴びているプロバイオティクスについてその科学的な情報を紹介する。	1月16日	池邨治夫	ヤクルト本社	
まとめ	15	食の安全とリスクアナリシス	バイオテクノロジー応用食品ならびに食のリスクアナリシスについて総括し、日本におけるリスクアナリシスの普及への道を論じる。	1月23日		橋本昭栄	サントリー(株)

注 2007/6/25 講義no.8の講師決定。2007/8/24 講義No.10の講師変更。2007/9/14教室の決定。2007/9/21講義No.1と3の入れ替え。